

第55回 社会保障審議会 生活保護基準部会  
令和8年2月27日

参考資料3

## 家庭の生活実態及び生活意識に関する調査の活用経緯 (平成29年検証まで)

## (参考) 平成25年検証における「家庭の生活実態及び生活意識に関する調査」の活用について

社会保障審議会生活保護基準部会 報告書 (抄) [ 生活保護基準部会 (平成25年1月18日) ]

### 1. 基準部会の役割と検証概要

#### (2) 今回の検証方法に至る経緯と今回の部会の役割

- 生活保護法の目的は最低限度の生活を保障することとともに、「自立」を助長することとされているが、その生活扶助基準の水準はその時々を経済的・文化的な生活状況や国民の社会通念などの影響を受けるものである。また、現在、生活扶助基準額の設定に当たっては水準均衡方式が採用されていることから、その水準は国民の消費実態との関係で相対的に決まるものと認識されている。

### 2. 検証に使った統計データ

- 今回の検証は、様々な世帯構成に対する基準の展開の妥当性を指数によって把握しようとするものである。この指数は第1・十分位の世帯の生活扶助相当支出を用いて算出した。第1・十分位の世帯を用いた理由は以下のとおりである。
  - ① 生活扶助基準を国民の健康で文化的な最低限度の生活水準として考えた場合、指数を全百分位の所得階層（全世帯）あるいは中位所得階層（第3・五分位）等から算出することも可能だが、これまでの検証に倣い、生活保護受給世帯と隣接した一般低所得世帯の消費実態を用いることが今回の検証では現実的であると判断したこと
  - ② 第1・十分位の平均消費水準は、中位所得階層の約6割に達していること
  - ③ 国民の過半数が必要であると考えている必需的な耐久消費財について、第1・十分位に属する世帯における普及状況は、中位所得階層と比べて概ね遜色なく充足されている状況にあること（次ページ参照）
  - ④ 全所得階層における年間収入総額に占める第1・十分位の年間収入総額の構成割合はやや減少傾向ではあるものの、高所得階層を除くその他の十分位の傾向をみても等しく減少しており、特に第1・十分位が減少しているわけではないこと
  - ⑤ OECDの国際的基準によれば、等価可処分所得（世帯の可処分所得をスケールメリットを考慮して世帯人員数の平方根で除したもの）の中位値（全データの真中の値）の半分に満たない世帯は相対的貧困層にあるとされる。今回の検証に用いた平成21年全国消費実態調査での等価可処分所得の中位値は約270万円であるが、第1・十分位の等価可処分所得の平均は92万円、最大では135万円となっている。これは第1・十分位に属する世帯の大部分はOECDの基準では相対的貧困線以下にあることを示していること
  - ⑥ また、分散分析等の統計的手法により検証したところ、各十分位間のうち、第1・十分位と第2・十分位の間において消費が大きく変化しており、他の十分位の世帯に比べて消費の動向が大きく異なると考えられること

## 耐久財の保有状況等について

一般市民の過半数が必要であると考えている必需品（右表）については、第1十分位と第3五分位の普及率（左表）に概ね差がなく、必需品が充足されている状況が確認された。

### 1. 総世帯

・生活実態調査項目の普及率の比較

項目 No.		第1十分位・第3五分位層 における普及率(注)		
		全消第1十分 位相当(x)	全消第3五分 位相当(y)	(x/y)
	集計世帯数→	n=3,289	n=3,508	
1	少なくとも年に1、2回程度は下着を購入	99%	100%	0.99
2	必要なとき医者にかかる	90%	97%	0.93
3	必要なとき歯医者にかかる	71%	87%	0.81
4	風邪をひいたとき医者にかかるか市販薬を飲む	90%	95%	0.94
5	冷蔵庫	98%	99%	0.98
6	自動炊飯器	91%	95%	0.96
7	洗濯機	97%	99%	0.98
8	カラーテレビ	96%	99%	0.98
9	電気掃除機	95%	99%	0.96
10	親族の冠婚葬祭に少なくともときどきは出席	84%	95%	0.88
11	トイレが世帯専用である	96%	98%	0.98
12	台所が世帯専用である	96%	98%	0.98
13	浴室が世帯専用である	91%	97%	0.94
14	全員に十分なふとんがある	93%	97%	0.96
15	生命保険(年金含む)に加入	55%	88%	0.62

一般市民		
項目 No.	項目	「必要」と回答 した割合
	集計世帯数→	n=1,409
1	新しい下着(1年に1回以上)	60%
2	必要な時に医者にかかること	95%
3	必要な時に歯医者にかかること	93%
4	風邪薬・鎮痛剤・塗り薬などの市販の薬	68%
5	冷蔵庫/冷凍庫	89%
6	炊飯器	75%
7	洗濯機	83%
8	テレビ	65%
9	掃除機	69%
10	親戚の冠婚葬祭への出席(ご祝儀等を含む)	53%
11	家族専用のトイレ	66%
12	家族専用の炊事場(キッチン)	68%
13	家族専用の浴室(お風呂・シャワー)	68%
14	家族人数分のベッドまたは布団	78%
15	生命保険等(死亡・障害・病気など)	58%
16	年金保険料の支払い/年金受給	75%

資料：(左表)平成22年家庭の生活実態及び生活意識に関する調査(厚生労働省保護課)

(右表)2011年社会的必需品調査(厚生労働科学研究費補助金(政策科学総合研究事業(政策科学推進研究事業)) 貧困・格差の実態と貧困対策の効果に関する研究(研究代表者 阿部彩)の一環として行われたもの)

※上記の項目は「2011年社会的必需品調査」(n=1409, インターネット調査、2011年3月実施、対象20歳以上)によって、回答者の50%以上が「必要であり、入手することができるべきである」と答えた項目。これらの項目は「社会的必需品(Socially Perceived Necessities)」と理論づけられる。

(注) **普及率** = ある・もっている・している世帯数 / (全世帯数 - 必要ない・したくないからない・持っていない・しない世帯数) [選好欠如が考えられる項目の場合]  
= はい(欠如していない) と答えた世帯数 / 全世帯数 [選好欠如が考えられない項目の場合]

(参考) 2011年社会的必需品調査における質問

問 現在の日本の社会において、すべての人にあてはまる生活水準についてお聞きします。  
次の(1)~(67)の各項目は、現代の社会生活をおくるために、必要であり、すべての人が得ることができるべきだと思いますか。  
以下の3つの選択肢の中から、最もあなたの考えに近いもの一つだけを選んでください。(○はそれぞれ1つずつ)

## (参考) 平成29年検証における「家庭の生活実態及び生活意識に関する調査」の活用について

社会保障審議会生活保護基準部会 報告書(抄) [生活保護基準部会(平成29年12月14日)]

### Ⅲ 生活扶助基準の検証

#### 5 今後の検証に向けた課題

##### (3) 新たな検証手法の開発について

##### ア 水準均衡方式の課題

- 現行の水準均衡方式については、一般世帯の消費水準が低下すると、それに合わせて変動する方式であり、それに伴い基準の低下が起こりうるものである。
- また、一般低所得世帯との均衡のみで生活保護基準の水準を捉えていると、比較する消費水準が低下すると絶対的な水準を割ってしまう懸念があることから、これ以上下回ってはならないという水準の設定について考える必要がある。
- 例えば、栄養摂取基準などからみて最低生活保障水準を満たすものとなっているかという観点から、健康で文化的な生活を送ることができる水準なのか検証することも必要である。

##### イ 新たな検証手法の開発

- 最低限度の生活を送るために必要な水準とは何か、本質的な議論を行った上で、単に消費の実態に合わせるとの考え方によらず、理論的根拠に基づいた複雑ではない検証方法を開発することが求められる。
- 今回、先行研究であるMIS手法を用いて試行的に生活扶助相当支出額を算出したところ、水準均衡方式による分析結果から導き出される生活扶助相当支出額を大きく上回る結果となった。これは、検証手法によって最低生活費は変わり得ることを示唆している。
- 上記の先行研究に関連して、社会的必需項目の不足状況に関する分析(※)を試みたところ、ひとり親世帯は他の世帯類型に比べて、生活水準が低い可能性があることを確認した(P6参照)。

※ 社会生活を送るに当たり、必要な資源の不足のために、一般社会で許容される生活水準が保てない状態に関して、先行研究「2011 暮らしに関する意識調査」(社会的必需品調査)の調査結果によって社会的必需項目であると判定されたアイテム(50%以上の回答者が必要であると回答したもの)を抽出し、当該項目の回答結果について経済的な理由の有無を判断基準として指標化する分析手法。指数が高い程、一般社会で許容される生活水準が保てない状態にあるとされる。

## 「家庭の生活実態及び生活意識に関する調査」に関する分析について

- 生活扶助基準や有子世帯の扶助・加算の検証に当たっては、消費支出データの分析を行うだけでなく、生活の質も踏まえた検証を行うため、家庭の生活実態及び生活意識調査を活用した分析を行うこととしている。
- 平成28年家庭の生活実態及び生活意識調査の一般世帯分データの集計結果がとりまとまったため、先行研究を参考に、以下の分析を行った。

### 分析の方法

#### ○ 社会的必需項目の不足状況による分析

- ・ 平成28年家庭の生活実態及び生活意識調査の一般世帯分データについて、各世帯がどの程度、相対的剥奪状態(社会生活を送るに当たり、必要な資源の不足のために、一般社会で許容される生活水準が保てない状態)にあるかを測るため、以下の方法により社会的必需項目を選定し、当該項目の回答結果を指標化した。

#### (社会的必需品項目の選定方法)

- ・ 先行研究「2011暮らしに関する意識調査」(社会的必需品調査) <厚生労働科学研究費補助金政策科学総合研究事業(政策科学推進研究事業)「貧困・格差の実態と貧困対策の効果に関する研究」(平成22～24年度、研究代表者 阿部彩)>の調査結果より、社会的必需項目であると判定されたアイテム(50%以上の回答者が必要であると回答したものを)を抽出。

#### (集計方法)

- ・ 平成28年家庭の生活実態及び生活意識に関する調査の質問項目の中で、上記の社会的必需項目に合致する項目を選定。
- ・ 選定した項目に対する経済的な理由により「保有していない」、「実施していない」と回答したそれぞれについて、社会的必需品調査で必要であると回答した割合を基に重み付けした上で、合計点数が100点となるように換算。
- ・ 世帯類型別(全世帯、子どものいる世帯、ひとり親世帯、高齢単身世帯、高齢夫婦世帯)に、等価所得階級で区分して社会的必需項目の不足に関する指標の点数を集計。

## 社会的必需項目の不足に関する指標の算定項目

先行研究「2011暮らしに関する意識調査」(社会的必需品調査)結果により、社会的必需項目と判定された項目(50%以上の回答者が必要であると回答した項目)	必要度値 (回答割合)	H28家庭の生活実態及び生活意識調査の対応質問	相対的剥奪状態に該当する回答(金銭的に余裕がないことを理由にできないと回答したものを相対的剥奪状態と整理)
食事の頻度(1日2回以上)	89%	Q1-1	金銭的に余裕がないから
肉・魚・豆腐などたんぱく質の摂取の頻度(毎日)	75%	Q1-2	金銭的に余裕がないから
野菜の摂取の頻度(1日1回以上)	75%	Q1-3	金銭的に余裕がないから
新しい下着の購入の頻度(1年に1回以上)	60%	Q1-7	ほとんど購入しない
必要な時に医者にかかること	95%	Q1-9(1)	金銭的余裕がないから
必要な時に歯医者にかかること	93%	Q1-9(2)	金銭的余裕がないから
炊飯器の保有	75%	Q2(4)	金銭的に余裕がないから
電気掃除機の保有	69%	Q2(10)	金銭的に余裕がないから
電話(固定電話)の保有	66%	Q2(15)	金銭的に余裕がないから
携帯電話(スマートフォン、PHSを含む)の保有	66%	Q2(16)	金銭的に余裕がないから
親戚の冠婚葬祭への出席	53%	Q3-4	金銭的に余裕がないから
急な出費への対応	57%	Q5-3	できない
生命保険等の加入(死亡・障害・病気など)	58%	Q5-6	金銭的に余裕がないから

## ○ 指標の算出方法

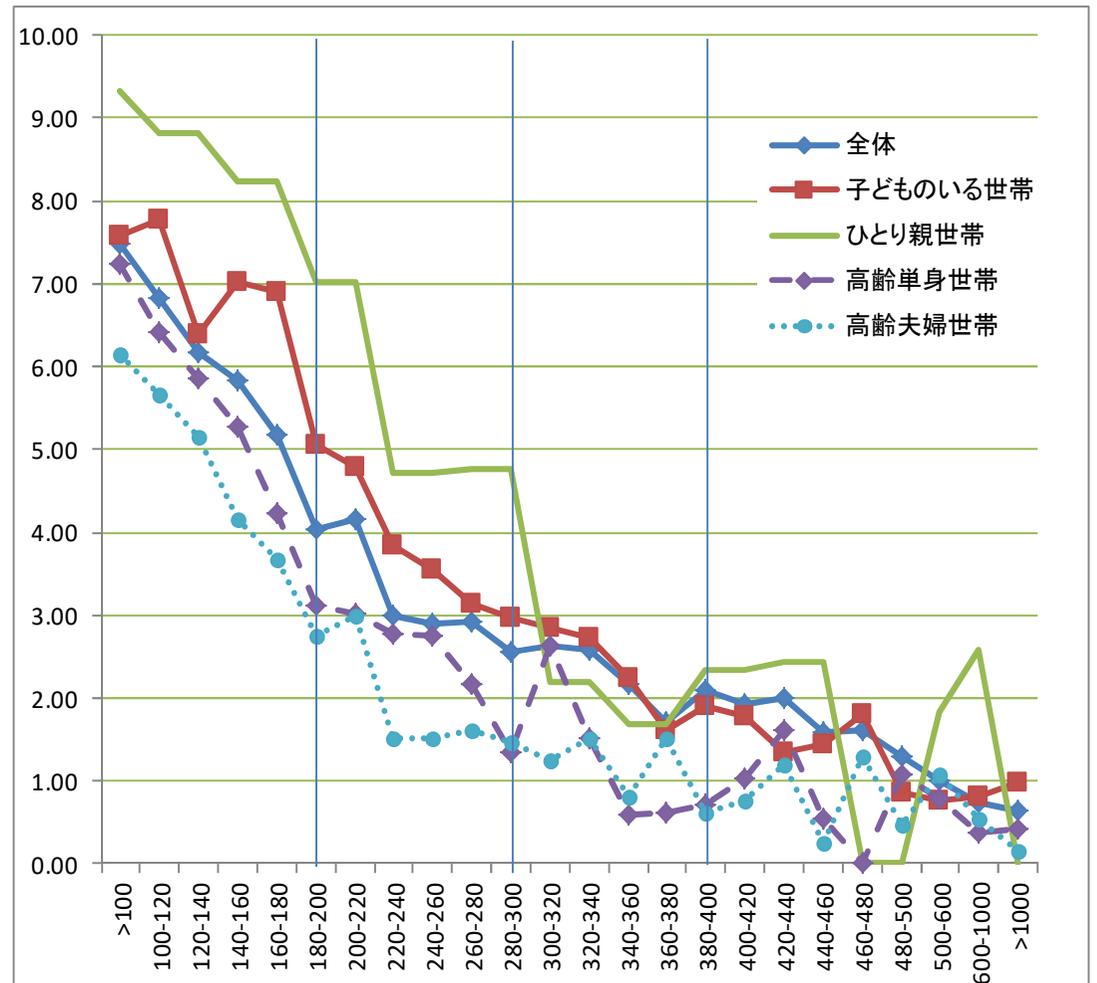
- 平成28年家庭の生活実態及び生活意識調査項目のうち、社会的必需項目に対して、金銭的に余裕ないことを理由にできないと回答したのものについて、該当項目につき1点を加算。
- 社会的必需品調査において、必要と回答した割合を上記で算出した点数に乗じて重み付けした上で、指標を算出。  
例)「食事の頻度」と「炊飯器の保有」が金銭的に余裕がないことを理由にできていない又は保有していないと回答  
指標  $(1点 \times 0.89 + 1点 \times 0.75) \times 100点 \div 9.31$  (社会的必需項目の回答割合の合計) = 17.62

## 社会的必需項目の不足に関する指標の状況(世帯類型別比較)

○ 等価所得別の社会的必需項目の不足状況について、世帯類型別に比較すると、ひとり親世帯が最も指標が高く、子どものいる世帯、高齢単身世帯、高齢夫婦世帯の順番となっている。

平成28年度 家庭の生活実態及び生活意識に関する調査に基づく社会的必需項目の不足に関する指標

等価所得階級(万円)	全体	子どものいる世帯	ひとり親世帯	高齢単身世帯	高齢夫婦世帯
>100	7.48	7.58	9.33	7.23	6.15
100-120	6.84	7.76	8.82	6.42	5.67
120-140	6.17	6.38	8.22	5.86	5.14
140-160	5.83	7.02	8.22	5.26	4.17
160-180	5.18	6.91	7.02	4.23	3.67
180-200	4.03	5.05	7.02	3.11	2.75
200-220	4.17	4.79	7.02	3.03	2.99
220-240	2.99	3.84	4.72	2.78	1.52
240-260	2.89	3.55	4.72	2.76	1.53
260-280	2.92	3.15	4.77	2.17	1.61
280-300	2.55	2.96	4.77	1.34	1.47
300-320	2.63	2.86	2.20	2.63	1.25
320-340	2.58	2.72	2.20	1.50	1.51
340-360	2.17	2.25	1.69	0.60	0.82
360-380	1.70	1.62	1.69	0.61	1.53
380-400	2.11	1.91	2.35	0.72	0.63
400-420	1.93	1.78	2.35	1.02	0.77
420-440	2.00	1.34	2.43	1.62	1.21
440-460	1.58	1.44	2.43	0.54	0.26
460-480	1.62	1.80	0.00	0.00	1.31
480-500	1.29	0.85	0.00	1.07	0.47
500-600	1.01	0.77	1.82	0.78	1.09
600-1000	0.75	0.80	2.58	0.37	0.56
>1000	0.64	0.99	0.00	0.43	0.15



出典:「平成28年家庭の生活実態及び生活意識調査」(厚生労働省)(特別集計)